働き手たち File 02

# 農業と福祉の連携が築く お互いに高め合う関係

仁成ファーム佐藤昌芳さん（中列左から1番目）、
音羽協働センターの栂野豊さん（後列左から１番目）とセンター利用者のみなさん

有限会社
仁成（じんせい）ファーム
佐藤（さとう） 昌芳（まさよし）さん

音羽協働センター
栂野（とがの） 豊（ゆたか）さん

## 厳しい人手不足がきっかけ

釧路市の仁成ファームでは5年ほど前から、福祉事業所に作業の一部を委託している。そのきっかけとなったのは「圧倒的な人手不足でした」と佐藤昌芳常務が話す。

「経営方針として牧場の規模拡大を目指し、3年後の搾乳頭数をイメージしながら増頭と近隣牧場の買い取りを進めていました。しかし、なかなか人手を確保できなかったんです」

「週一回、短時間勤務もOK」という条件で求人を試みるも、反応は今ひとつ。そんな時、たまたま新聞で「農福連携」の記事を読んだ佐藤さんは藁にもすがる思いで市役所の福祉課へ。そこで紹介されたのが、牧場作業と障がい者をつなぐ活動を模索していた栂野豊さんだった。ひと通り仁成ファームの作業を見学した栂野さんは「これなら何とかできそうです」と頷いたという。

## 経営の成長につながる農福連携

佐藤さんと栂野さんは、一年の歳月をかけて障がい者が作業しやすい体制をつくり上げていった。

例えば、牛舎内の清掃を1日3回から1回に集約したり、ミルキングパーラーでの搾乳作業を3工程から5工程に分解し、単純な作業の繰り返しとした（左図参照）。また、専用の道具に目印をつける、注意点を貼り紙にするなどの業務改善を実施。

「こうした工夫で作業が効率化し、牛のストレスが減るとともに、増えていった牛の飼育も難なくできるようになりました」

仁成ファームで働く障がい者のAさんは、「背が低い自分のために、作業しやすいよう踏み台を用意してくれるなどの心配りが嬉しいです。毎日、楽しく搾乳しています」と笑顔で語ってくれた。

農福連携をスタートさせて5年。福祉のノウハウを活かした働きやすい職場づくりが労働災害を防ぎ、牧場の生産性向上につながり、農業経営を成長させている。現在は障がい者が担当する仕事の幅も広がり、子牛の哺育補助をこなす方もいるという。

「職場の雰囲気が明るくなり、従業員が新しい業務に挑戦する時間も生まれています。障がい者の皆さんは、今や牧場に欠かせない大切なパートナーなんです」

ミルキングパーラーとは、
牛を集めて搾乳を行う専用の施設のこと

新人スタッフには仕事を見せながら
丁寧に伝える

ミルキングパーラーの
牛が入るブースを清掃する様子

## みんなが働きやすくなった！ 3つの工夫

### 1 作業を分解

当初は3工程だったミルキングパーラーの作業を、5工程に分解。5つの作業をそれぞれ1人が担当する。集中力が切れないよう、約1時間ごとに担当作業を交代する工夫も。

【 Before 】

- 前搾り、乳汁チェック、牛番号チェックなど
- 乳房清拭、搾乳ユニット装着
- 乳頭消毒、搾乳ユニット洗浄

↕ 8分短縮

【 After 】

- 前搾り、乳汁チェック
- 牛番号チェック、乳房清拭
- 搾乳ユニット装着
- 乳頭消毒
- 搾乳ユニット洗浄

### 2 道具には目印を

道具にテープ等で目印をつけ、牧場所有のものと福祉事業所所有のものとを区別し個数を管理。必要な時に道具がないということが起きないようにしている。

### 3 注意点は張り紙で

注意点は口頭ではなく、張り紙にした。誰もがいつでも確認できるよう、ルールを見える化したことで些細なミスが減った。

「農業」は、魅力的な職業です。これから就職または転職される方に「農業やってみたい！」と、また、実家が農家の方にも「農業を継ぎたい！」と思ってもらえるよう、これからも農業の魅力発信に努めてまいります。

編集者より confa mail 読者より

〈 読者のお便り 〉
長沼町 50代

職業として「農業」を目指す方への情報も載っていて、内容が深いです。職業として「農業」がステータスとなっている国がありますが、日本も北海道はそうなりつつあるのでは？と期待します。ガンバレ！美味しい安全野菜をありがとう！